志摩
廿六編下
へ13
1178
51
廿六編下
へ13
1178
52

志摩
廿六編上
仲蹟曲亭馬琴
へ13
1178
51

特
1178
51

白縫譚 廿六上集

柳下梅蝶

四時ふ無聲の響物ハ四種あり。春ハ午祭の太鼓賣夏ハ延命散賣秋ハ虫賣冬ハ京師ふのミ限る。空也寺の鉢扣。茶筌賣とハ何人の考しるふきどこ。古よりのふとなるふ當今ハ其他ふも呼ぞよりる活業ゞ出来街頭ゞ宝鐸ゞ驛路鈴ゞ鳴バ町飛脚ゞ通行と雖も必定しる。是ハ四季ゆゑかゝらぜ。或時ハ便士と替名ゞついゝく遊女町の狀文をもおつゝハ戀雜夢うものとやいハべき。押册も近世まゞ稲荷祭の太鼓と共ふ多分ハ春賣とのりしがいつしゝ不断の東西とハなりぬ扨此編ハ虫賣の時恵籠や秋作と照葉ゞ不計再會より。智月ゞ吟と欲きてゝ幽靈ふ水のまゝ鉢扣それ以ゝくまて冬の夜ふ私代ゞ亡魂ふ道すゝ。清光尾ゞ吏條さゝ話說定齋賣の來夏の上梓いふ時を不嫌とてあまり季候ふ違ひもゝ風鈴捷歩を催ゝくありとも。開版を東府四里四方の看官ふ告ゝく思ふ意をそのまゝ舒詞ふ誌

安政戊午林鐘 (十五)

柳下亭種員

三蔵山伊達五郎
山鹿玄之亟の首級
玄之亟の妻翠の首級

安白梅の君
曲亭馬琴

鷲津六郎正辰

志ぐれぬ　禪　六十編ニテ一　恵齋芳幾画
　　為永四編ヲ禪ニ　春彦作

兩面織花田物語　初編ヨリ四編迄同　五編ヨリ同　恵齋芳幾画

假名讀八犬傳　三十編ヲ假名讀ニ　五編ヨリ朝露樓芳春画

古今俳優似顔大入全　故豐國公羽蓋　大錦　白二番續

太平記英勇傳　中　錦山々亭有人記　百番續　恵齋芳幾画

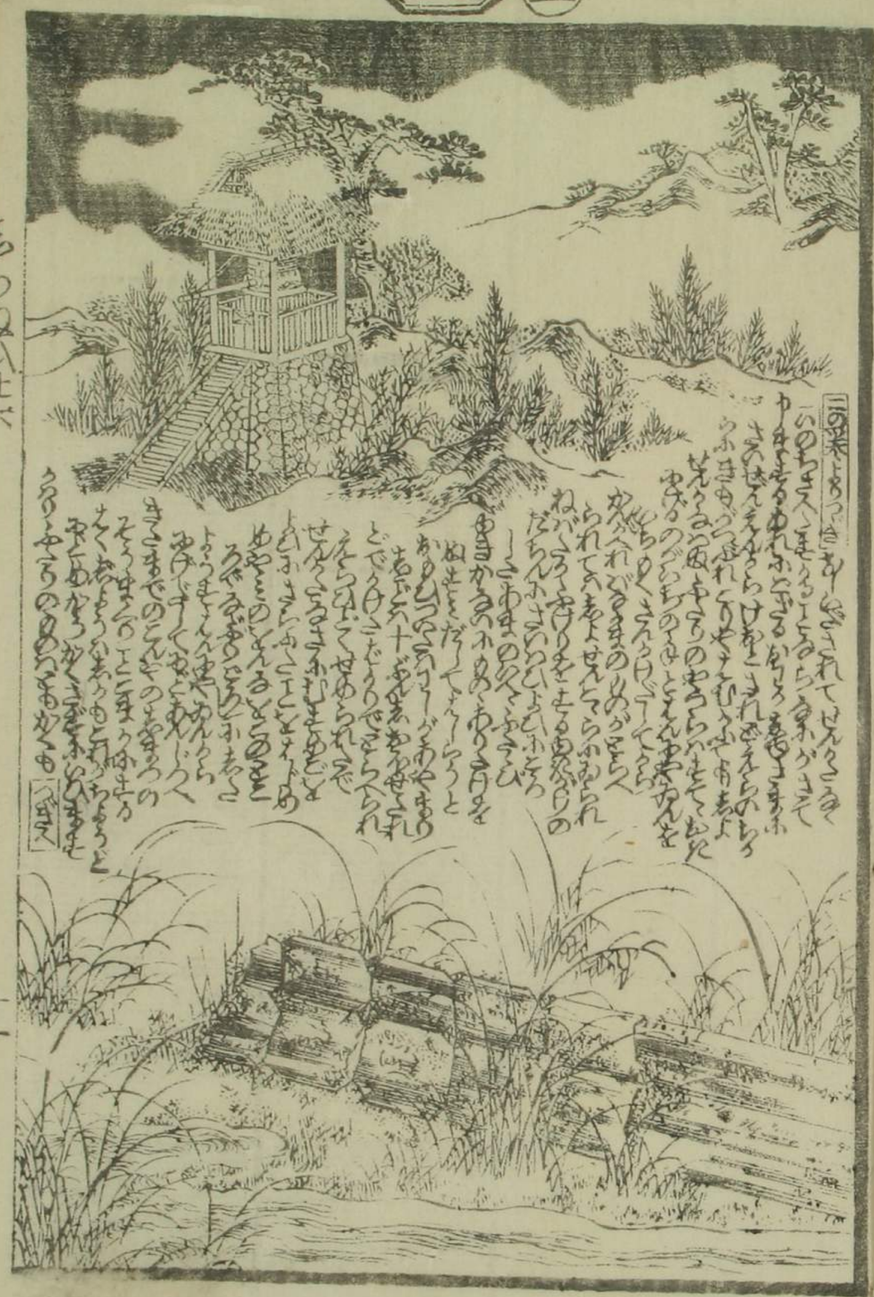
婦人百物語

桜園作
國貞画

廿六編下

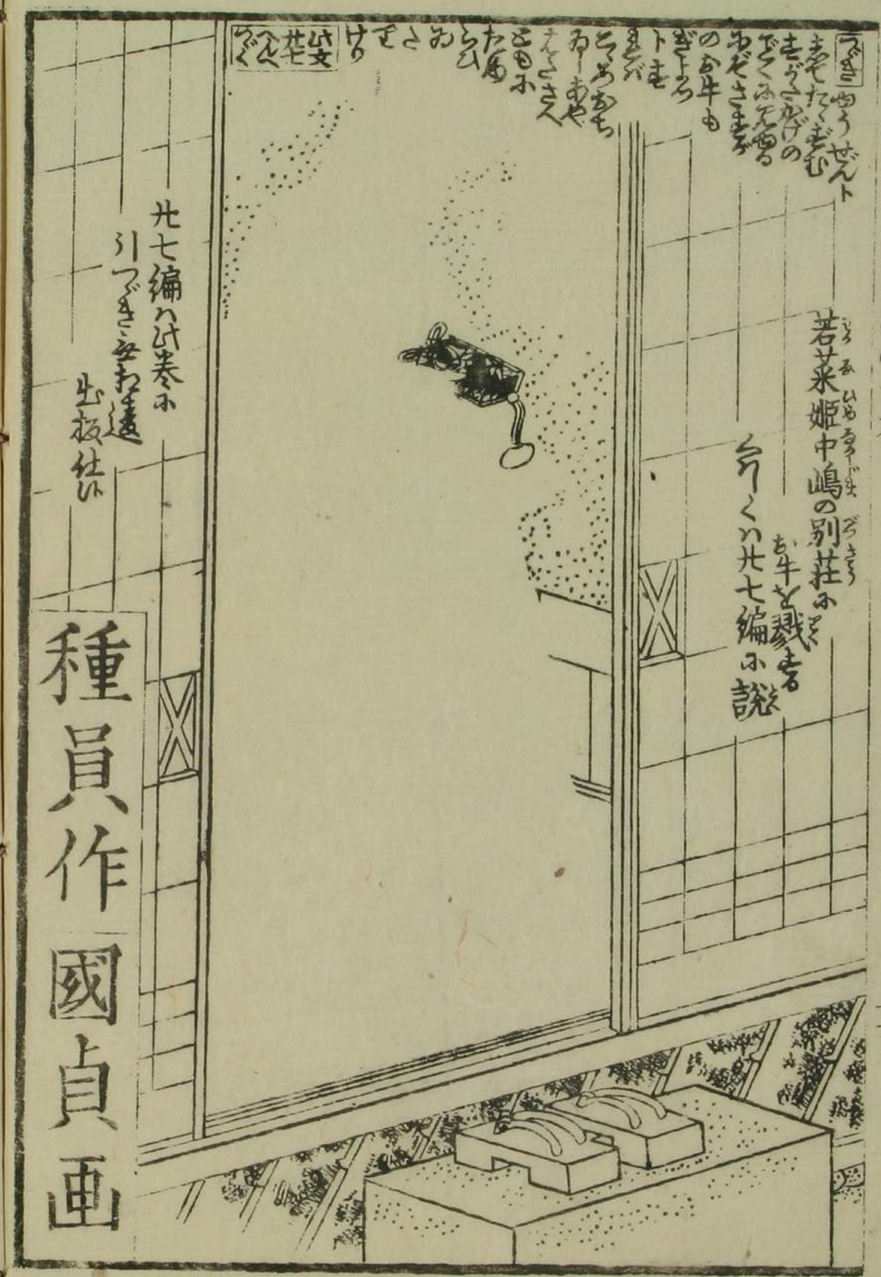
へ13
1178
52

特へ13
1178
52



清

四の巻へつづく



浪速黄金鶴

三編 諸作

[illegible]

[illegible]

[illegible]